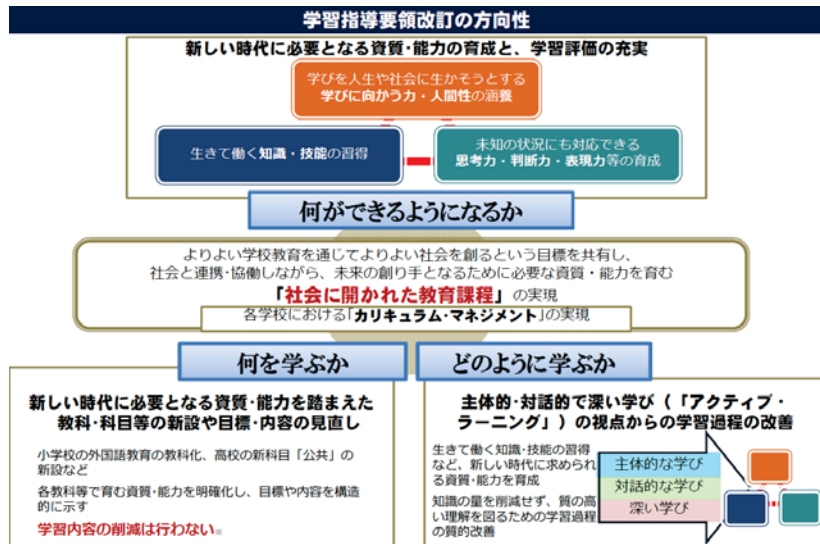


2017年2月1日(水) 平成28年度静岡県総合教育センター
次期学習指導要領対応授業力向上研修(高等学校・特別支援学校)
9:35-11:05 @静岡県総合教育センター大研修室

学習評価から 課題設定を考える

しろろず はじめ
白水 始
東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構(CoREF) 機構長
高大接続研究開発センター 教授
国立教育政策研究所 フェロー

何ができるようになるために 何をどう学ぶのか…これをみんなで考える

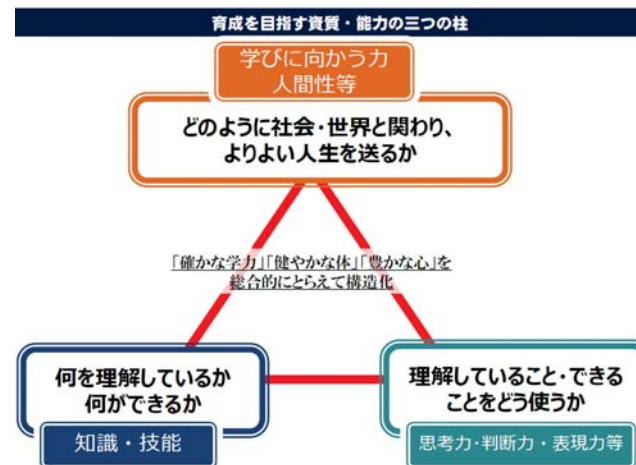


※高校教育については、最も重要な事実的知識の習得が大学入学者数減で阻まれることが課題になっており、その対応を高めるため、国家戦略的視点から高度人材育成を推進する。
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(H28.12.21)

午前の目次

- ➡ 前回の復習: 育成すべき資質・能力と
アクティブ・ラーニング
- アクティブ・ラーニングの授業づくり
- アクティブ・ラーニングの評価

「何ができるようになるか」



- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(平成28年12月21日)

→先生が何をしたかではなく、子どもがどう学んだか

5

午前の目次

- 前回の復習:育成すべき資質・能力とアクティブ・ラーニング
- アクティブ・ラーニングの授業づくり
- アクティブ・ラーニングの評価

7

主体的・対話的で深い学び(=アクティブ・ラーニングの視点)と言ったときの「対話的な学び」とは？

中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(平成28年12月21日)

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

6

アクティブ・ラーニングのゴールは型の習得ではない

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(平成28年12月21日 中央教育審議会 答申)

「アクティブ・ラーニング」は、形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく、子供たちの…多様で質の高い深い学びを引き出すことを意図するものであり、さらに、それを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものである。

⇒私たちが目指したいのも、型の共有を出発点にした授業デザインや学びそのものについての私たちの理解の深まり

8

これからの教師像

- 「反省的実践家」としての教師 (佐藤, 1997)
「教科や教授法についての知識と、子どもの実態を考え合わせ、学びの質を継続的に上げていく支援をするのが教師の仕事」

⇒自分の実践的判断の根拠を学習の記録を基に語り、次の仮説を自分で立てられる教師

「こう考えられるからこう試してみた。その結果こうなったから、最初の考えを見直して、次はこうしよう」

→生徒に求めたい姿でもある。ならば先生から！

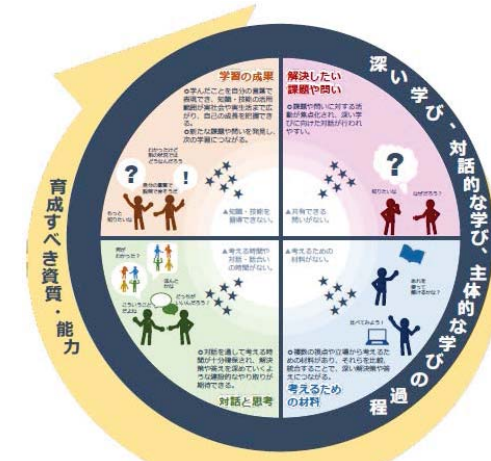
CoREFの取組

- 「人はいかに学ぶか」の研究をベースに、
- 市町、県の教育委員会と連携して
- 子どもたちが「自分の頭で自主的に考えられる」授業づくりを実践的に研究する

協調的な学びを組織する授業づくり：CoREFの提唱する基本的な方向性

- 人は元来、自分で考えて学ぶことが得意
- 状況さえ整えば、学ぶ力を発揮できる

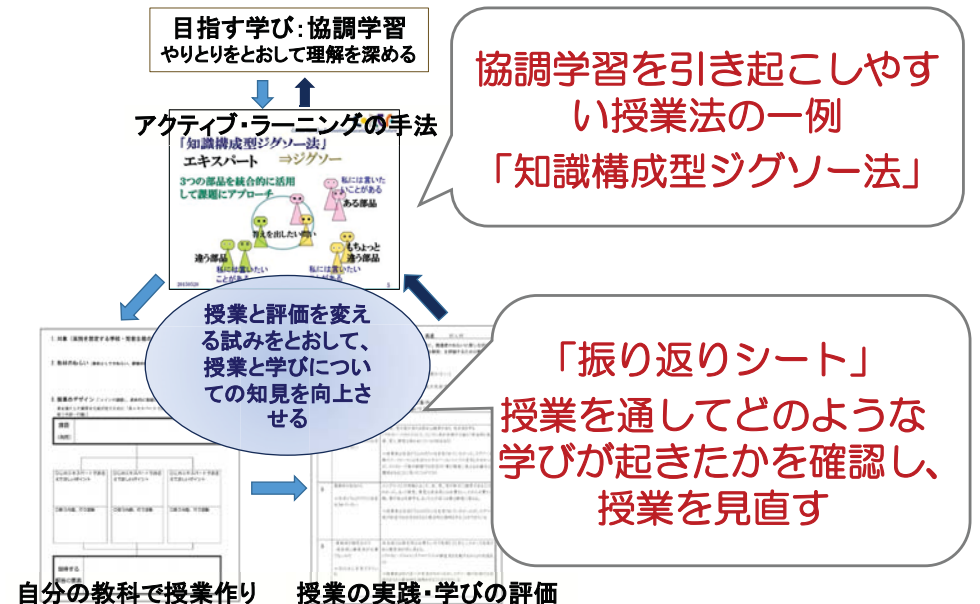
静岡県の取組



「学び」や「知識」等に関する科学的な知見に基づき、
●解決したい課題や問い ●考えるための材料 ●対話と思考 ●学習の成果
を意識して授業を設計しましょう！

- 今後は県・市町、学校等が各自一体となって、ALを実現する試みがなされていく

協調学習の授業づくりプロジェクト全体像



自分の教科で授業作り 授業の実践・学びの評価

授業手法ですべて決まるわけではない 単なるジグソー法



〈問〉豊臣秀吉がつくった3つの制度について学ぼう

〈部品〉

- A. 太閤検地について
- B. 身分統制令について
- C. 刀狩令について

⇒秀吉は村ごとに石高と耕作者を定める太閤検地、武士と農民を厳しく区別する身分統制令、農民から武器を取り上げる刀狩という3つの制度を作った

知識構成型ジグソー法 教科の本質を 問いにする

〈問〉豊臣秀吉はどんな社会を作りたいか
〈部品〉

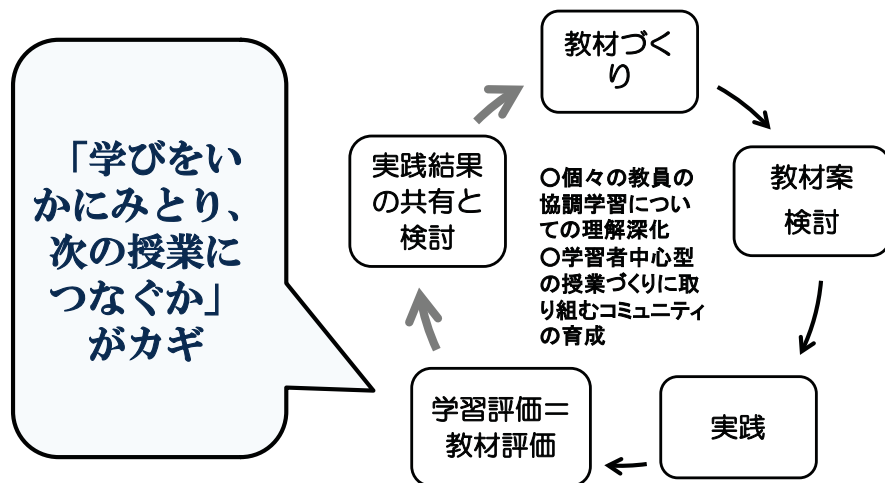
- A. 太閤検地について
- B. 身分統制令について
- C. 刀狩令について



⇒秀吉は、武士と農民を厳しく区別し、刀も取り上げて、農民が確実に年貢を納めないといけない社会を作った。これによって農民が反乱することを防ぎ、年貢も確実に手に入るの、武士にとっては安定した社会になった。

さらなる疑問:「秀吉, お前も農民だろ」「うって誰にとって住みやすい社会なのかな?」 探究につながる

授業は一回やって終わりではない PDCAサイクルとしての授業づくり



午前の目次

- 前回の復習:育成すべき資質・能力とアクティブ・ラーニング
- アクティブ・ラーニングの授業づくり
- ➔●アクティブ・ラーニングの評価

「評価する」と言ったときに

- 成績をつける(評定)
- 認めてあげる(評価してあげる)
- **子どもの理解などを把握する**

アクティブ・ラーニング型授業においては、この3つめの意味の「評価する」が一層重要に

観察

認知過程を観察する
ための窓

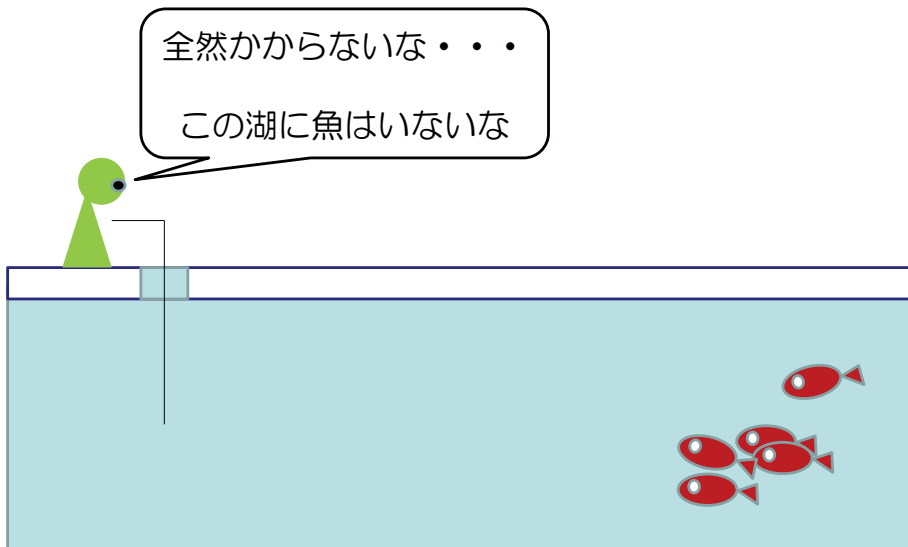
解釈

観察できた認知
過程を解釈

認知過程

窓から見えるその時起きている認知過程

評価の三角形
Pellegrino, et al., 2001,
*Knowing what students
Know*. NAPr.



お手元のワークシート(一枚目が絵のもの)の
問い①に取り組んでください。
この配布資料の後のページはご覧にならずに
取り組んでください。

アクティブ・ラーニング型授業における評価： 何のために「評価」するのか

- 本時で子どもが何をどう理解し、
 - どんな疑問をもって次の授業に進むのか
- 子どもの頭の中(認知過程)がつかめれば
- ☞次の学習をどうデザインするか
 - ☞今日の授業(教材)の見直し
- 次の学びの質を上げていくことができる

どちらの児童がより「理解している」？

問題	五角形の内角の和は何度？
児童A	540度です（正解）
児童B	五角形だと・・・辺が五つで・・・三角形五つで900度

窓の開け方が違えば、見えてくるものも違う

観察

認知過程を観察する
ための**ある1つの窓**

解釈

観察できた認知
過程を**解釈**

認知過程

**任意に開けた1つの窓から見えるその時
起きている認知過程**

評価の三角形
 Pellegrino, et al., 2001,
*Knowing what students
 Know*. NAPr.

違う聞き方をしてみると？

問い	どうしてその答えになるの？
児童A	さっきそうだって習ったから
児童B	えと、辺が五つで、三角形五つで180かけて、あ、真ん中の360度引くから540度！

知識理解の「評価」と言ったときに

- 答えを教えた直後にYes/Noクエスチョンや穴埋め問題で高い点がとれるか
- **しばらく経ってから、抜き打ち的に発展問題や原理的な理解を問う問いを出されたときに答えを考えられるか**

穴の開け方が違えば、見えてくる「理解」も違うかも *伸ばしたいのはどんな理解か*

学びと評価の質をあげるための授業デザイン検討

- ① 授業者の「期待する解答の要素」は、教えたい内容の肝をとらえたものになっているか

教材理解、教材研究は十分か

- ② 「発問」は「期待する解答の要素」を引き出すような問いになっているか

- ③ 「発問」に対して生徒は実際にどんな表現で答えをつってくれそうか

具体的な解答例を想定することで、「期待する解答の要素」や「発問」に無理やちぐはぐさがないかを検討

※①～③の視点をぐるぐる回しながら、授業のデザインを掘り下げていくことが大事

評価を射程に入れたアクティブ・ラーニング型授業のデザイン

- **どんな窓の開け方をするか**
 - ① 一連の学習での子どもの理解深化を視野に入れて、前後で深まりのある課題設定を
- **どこに窓を開けるか**
 - ② 見たいところを見られる観察の窓の開け方か
- **窓から見えたことをどう解釈するか**
 - ③ 本当に見たいところ(理解の肝)はどこか
 - ④ 肝を具体的な表現として掘り下げる

授業デザインシートを使ったシミュレーション

